

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	女性として書く男性作家—— L・フランク・ボームの筆名使用をめぐって				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	有元 志保
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	短期大学部・准教授	氏名	有元 志保

講演題目
女性名義とジェンダー表象 ——L. Frank Baum の Aunt Jane’ s Nieces シリーズをめぐって
研究の目的、成果及び今後の展望
L. Frank Baum は、アメリカ初のおとぎ話と位置づけられることの多い <i>The Wonderful Wizard of Oz</i> に始まる Oz シリーズの作者として知られる。本研究では、Baum が女性名 Edith Van Dyne を用いて発表した Aunt Jane’ s Nieces シリーズに焦点を当て、女性名使用の背景と物語内のジェンダー表象を総合的に検討した。 まず、Baum の女性名使用の要因を分析した。従来、彼の筆名使用は商業的理由によるものと説明されることが多かったが、本研究はそれに加えて、創作上の自律性の確保と複数のアイデンティティを演じる試みとしての側面に着目した。Oz シリーズの成功によって確立された「L. Frank Baum」という作家名は強力なブランドとなったが、その一方で、同シリーズへの継続的な需要は彼の創作の自由を制限した。女性名を含む複数の筆名は、こうした制約を回避し、新たな読者層や主題に向き合うための手段として機能した。また、筆名使用は単なる出版戦略ではなく、Baum が多様なアイデンティティを演じ分けるために不可欠であった。彼は Edith Van Dyne という名を、作品の出版や作品内部の語りにとどまらず、出版社と協働して実在の女性作家を演出する社会的パフォーマンスにも使用した。このように筆名は、Baum の創作の自由を確保しつつ、異なる「声」やアイデンティティの表現装置となった。 次に、Aunt Jane’ s Nieces シリーズにおけるジェンダー表象を、登場人物の一人である Uncle John の役割に着目して分析した。女性の主要な活動領域が家庭に限定されていた 20 世紀初期のアメリカを舞台に、中心的な登場人物である少女たちは積極的に社会的活動へ関与するが、その活動の多くは Uncle John の経済的・技術的援助によって可能となる。Uncle John は、Oz シリーズの特色である魔法ではなく、近代的手段によって少女たちの行動範囲を広げる「現代の魔法使い」として、女性の主体性を現実的枠組みの中で成立させる媒介となっている。さらに彼は、シリーズ序盤で世を去る Aunt Jane の象徴的後継者として、女性であるがゆえに妹が果たせなかった保護者・支援者の役割を、男性として引き継ぐ存在と位置づけられる。 このように本研究は、女性名 Edith Van Dyne と、その筆名の下に出版された Aunt Jane’ s Nieces シリーズの物語構造が、20 世紀初期アメリカのジェンダー規範に従いつつも、その内部から女性の声と主体性を拡張しようとする Baum の試みを示していることを明らかにした。